

機能水の口腔領域への応用の現状

芝 燁彦

昭和大学歯学部有床義歯学講座

I. はじめに

日本機能水学会が2002年9月13日(金)に設立され、第1回の学術大会が東京・品川区立総合区民会館「きゅりあん」大ホールにおいて2002年12月19日(木)、20日(金)の両日開催された。メインテーマは「生体を守る機能水の現状と新たな展開」。国内外の医・歯・薬・農・水産・環境・理・工・食品・衛生学など多岐にわたる分野で機能水に関心をもつ研究者約1,200人が一同に会し、特別講演や一般演題の発表に耳を傾け、さらに活発な意見交換が行われ、成功裡に閉会した。

栄えある第1回の学術大会の大会長を筆者が務めさせていただき、また本学会において大会長講演をさせていただいた。その講演内容の原稿の依頼が本学会編集委員会よりいただいたので、その講演内容の要旨を記述する。

II. 機能水に関する口腔領域での研究

今日、口腔領域での機能水(強電解酸性水)の応用はめざましいものがある。1994年(平成6年)3月17日に強電解酸性水および強電解アルカリ性水の殺菌作用・洗浄作用の機序などを解明し、口腔領域へ適正な応用普及を目的として、強電解水歯科領域研究会が設立され、同年6月16日に第1回強電解水歯科領域研究会学術大会が開催されたが、その当時は機能水(強電解酸性水)に関しての研究は少なく、その殺菌作用など優れた効能を発揮するメカニズムや作用機序などの解明はほとんどされておらず、まして日常臨床は実験的なものであった。その後研究会の学術大会を重ねるごとに会員数も増加し、研究の質・量ともにその充実度は着実に向上した。1999年には第8回の強電解水歯科領域研究会学術大会が開催されたが、特別講演3題、一般講演18題、コマーシャル講演、展示も行われた。研究会の参加者の増加、演題の増加に伴い研究会を学会へ発展・移行させることが理事会、総会により決定され、2000年という記念すべき年に強電解水歯科領域研究会が日本口腔機能水学会“The Society for Oral Functional Water”と改名された。本学会の目的は歯学および関連領域において機能水に関する研究の進歩・発展と知識の普及を図り、国民の保健の増進に寄与することにある。名称の変更にあたっては強電解水から機能水へと変更された。そ

れは電解することにより生成される水だけではなく、磁気、光などのエネルギーが与えられて生成された水も有効な機能を果たすことがわかったからであり、機能水の応用分野は、工学分野、医療分野、農業分野、ゴルフ場、畜産業、食品分野、漁業分野、理美容業、ビルマンション、一般家庭へとあらゆる分野で応用利用されており、その広がりは無限であることによる¹⁾。

歯科から口腔に変更したのは歯科一般の予防・治療のみでなく、口腔から摂取される食品、飲料など農業・漁業・食品それらすべてを含めた領域、また機能水によるヒトの健康保持、増進を含めた領域まで幅広い研究・発表を行いたいと考えたからである。

その目的を達成するため、第1回日本口腔機能水学会学術大会は区切りよい2000年3月25、26日に開催された。機能水の発展を期待して“21世紀にはばたけ機能水”をメインテーマとした。これは21世紀を迎えるにあたって機能水によるヒトの健康保持、増進を図り、そして自然保護にやさしい社会の実現を目指したいとの願いからである。日本口腔機能水学会学術大会も回を重ね、第4回日本口腔機能水学会学術大会が2003年3月1日に日本大学歯学部野本成晃教授を大会長として開催された。これまでの一連の学術大会、優れた多くの研究発表により強電解水の優れた機能を発揮するメカニズムやその作用機序もかなりの部分で解明され、その臨床応用にあたって口腔領域すべての臨床分野で応用されるようになってきた。それは強電解水のもつ生体にやさしく、自然環境を守る優れた性質を有していることによるものであるが、毎日毎日の着実な先生方の研究成果によるものが大きいと考えている。

また第1回日本口腔機能水学会学術大会と同時に日本口腔機能水学会誌(Journal of the Japan Society for Oral Functional Water)第1号を発刊した。本学会誌は年1刊とし、今年で第4刊までが発刊されている。本誌は機能水に関する科学的解明とその有効な活用法を研究し、その研究成果を公表する媒体、また互いの情報の場として大いに活用されている。

III. 機能水(強電解水)の口腔領域への応用

今日、口腔領域での機能水(強電解水)の応用はすべての領域に及んでおり、極端なことを言えば、機能水のみで

Present State of Application of Functional Water in Dental Field

Akihiko SHIBA

Dept. of Removable Prosthodontics, School of Dentistry, Showa Univ.